

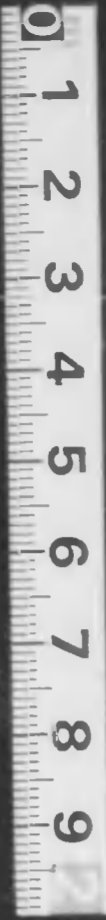
寫眞週報

編輯部情報閣内
ンセ十・號四十七第・日九十月七

昭和十四年七月十九日發行
（昭和十四年七月十九日發行）
（昭和十四年七月十九日發行）
第七十四號



夏休みをすてい





「大日本忠靈顯彰會」

誕生す

戦前に散華した六萬有餘の英靈を以しめ純忠の至誠に貫かれた多くの英霊を永久に國民敬慕の的とし、國體無窮の興隆を期せんとする大日本忠靈顯彰會は、早くも秩父宮、高松宮兩殿下の台階を仰ぎ奉り、重慶深き支那事變對策二周年の七月七日、東京九段の軍人會館で盛會に舉行された。會員は多くも秩父宮、高松宮兩殿下をはじめ奉り参列職員一同忠靈に敬慕の贈問。壇上正面御右は秩父宮殿下、御左は高松宮殿下、壇上右方は参列の關係、前列左から平沼首相、有田外相、木内内相、板垣陸相、米内海相、豊野法相。

撮影 東京日日新聞社

趣味と美益感激の
満洲の旅

内地・朝鮮から
往復・回遊汽車費

単 獨 …… 二
團 體 (二〇人以上) …… 三
學生團體 …… 五
五割引以上

詳細は滿鐵鮮滿支案内所へ

東京丸ビル 同赤坂榮町
大阪堺筋 名古屋廣小路
門司税関前 下關驛前
新潟古町通



ハルビンの中央寺院(サポール)

滿鐵鐵道總局

日たへ迎を年周二戰聖



聖戦の日は再びめぐり来つて七月七日、従後一億の同胞は華つて意義深い支那事變勃發二周年の日を迎へた。この日、全国津々浦々に戦捷の日軍旗は翻へり、國民は國難の英靈に對する敬虔な歌謠の中に興亞の誓ひを新たにし、數々の催しは帝都をはじめ内地と大陸をとはず各地に行はれたのである。

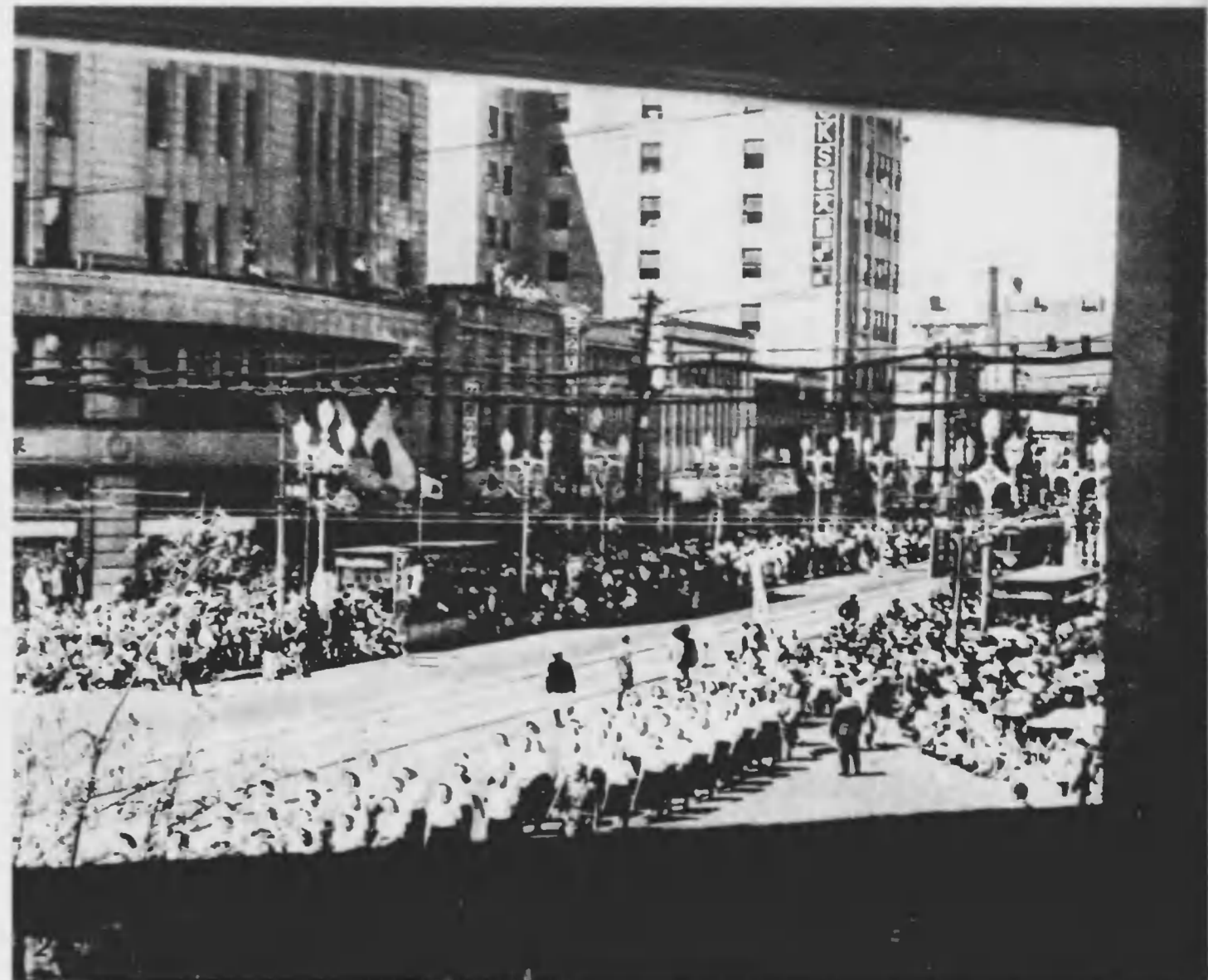


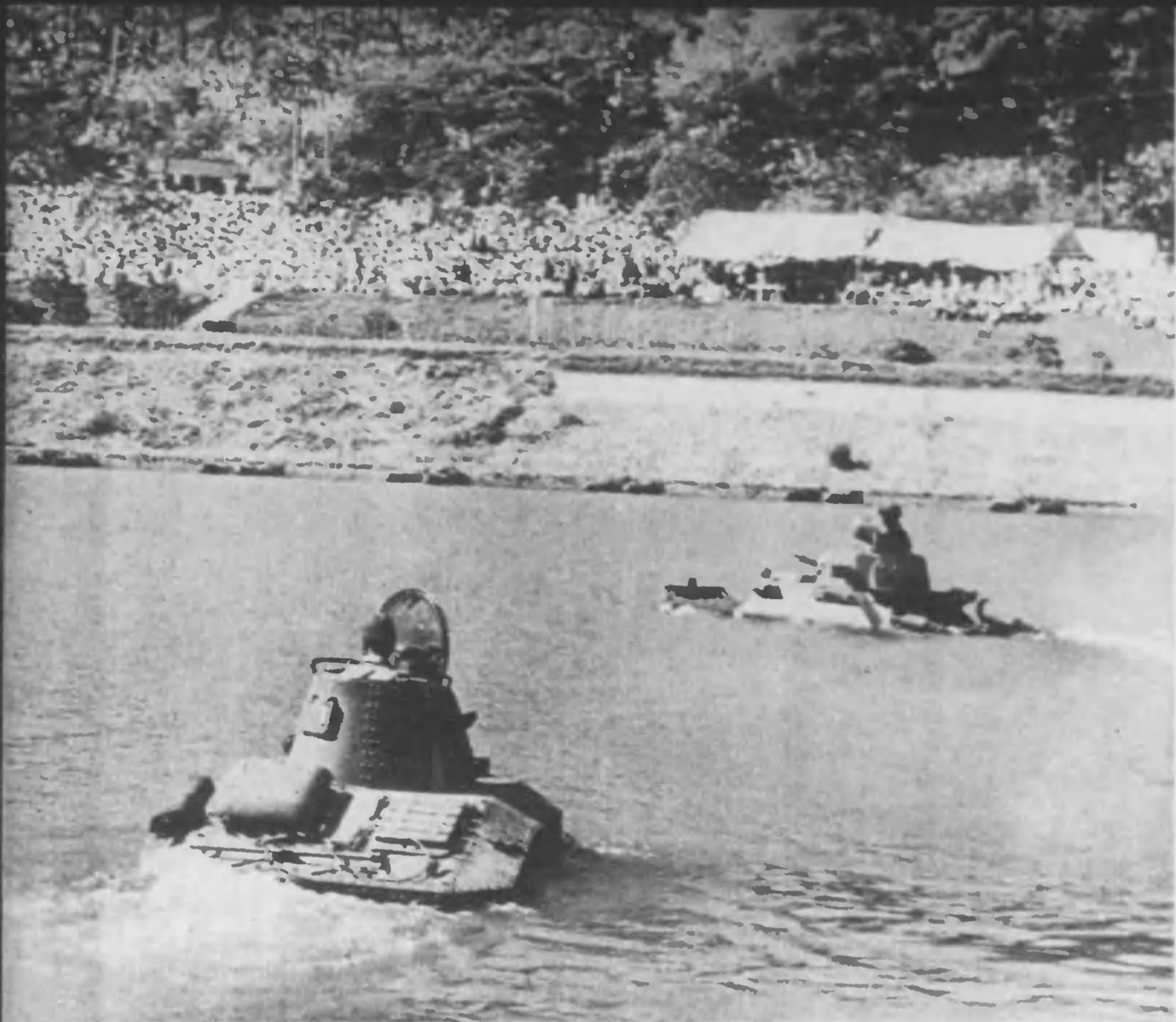
1 この日正午、力強く響き渡つたサイレンを合圖に一億同胞一齊に一分間の黙禱が行はれた。東京銀座郵便局橋頭でもこの瞬間、繰るやうな人通りはびたりと停つて敬虔な黙禱がつづく。2 黙後「戦場の心」で、「一汁一菜、禁煙禁酒、卓樂禁止」のスローガンが掲げられた銀座街頭に女學生の軍樂大行進はすすむ。

3 帝皇の御廟を記念繪巻にまつ明治神宮と靖國神社の社頭からくりひろげられ、參詣の市民と軍隊、學生、各團體等の列は未明からひきもたらすついで、寫眞は靖國神社社頭。

4 5 6 眞夏の太陽としてかぐやく代々木原頭には尙武日本の意氣を高揚せんとする聖戦記念館道大野殿が、長くも賀陽宮殿下の台座を仰ぎ奉り、小、中、大學の劍士一萬五千名の参加を得て大觀衆の興奮の標に紅白に分れ華々しく展開された。

撮影 加藤泰平





日たへ迎を年周二戰聖
習演防攻の軍陸
京東

七月七日、支那事變二周年を記念する陸軍省、文部省、東京府主催の攻防演習は、近衛師團司令官附野少將統監の下、快晴の多摩川河畔に空陸の最新鋭兵器を動員して行はれた。この日、板垣陸相、飯田近衛師團長らも河畔に觀戦したが、射撃の夏空には陸上部隊に協力するわが新鋭陸空軍の壮烈な活躍あり。炎天下の大地には巨砲の吼えあり、戦車隊と歩兵部隊は轟々たる煙幕の中を夏草を踏み、清洲の水を離れて敢然敵前渡河を遂行。更に野砲隊の壯絶な肉弾戦を展開、買収砲の立機に、兩岸を埋めた幾十萬發は息づまる思ひて大陸にある將兵の活躍を偲んだ。

- 1 多摩川兩岸に相對した攻防兩軍は一齊に砲火を開いた。この日の花形水陸兩用戦車は攻撃軍の先陣を承つて敵の猛射の中を悠々河を渡る。
- 2 工兵隊は敵の亂射を浴びて、挺身折疊舟による架橋作業を進める。
- 3 架橋作業完成するや攻撃部隊の主力は砲臺を利し、機舟と橋とによつて一舉に渡河を開始した。
- 4 對岸に達した攻撃軍は師團長の命令一下刀を極ひ、剣をかきして敢然突撃に移つた。
- 5 攻撃軍は戦車を先頭に鐵條網を破り、喊聲をあげて防禦軍陣地に突入、陸の完勝また敵陣に猛烈掃射を浴びせかける。

困難な敵前渡河作戦のために出現した水陸兩用戦車は岸を下つて河中に入るや忽ち鐵の舟と變つて彈雨の中も悠々對岸にわたり、再び元の戦車となつて敵中に躍り込むといふ特長を持つてゐる。

撮影 内閣情報部



はて村農



夏休みをすて、

「小父さん、東京のお友達は夏休みなにしてる」豆絞りの手拭もおしやまに除草する土の子は洗むる汗を額一杯に笑ふ。

起きろよ〜の起床ラッパが男ましくなり響く。ハツと目がさめた。そばの弟は軽い腹息を立てよく寝てゐる。續いてなる集合ラッパ、自分は思ひ切つて飛び起きた。
 「起きろよ、起きろよ」
 と弟を揺り起した。弟は目を開いたが又無言で眼を閉じた。
 「起きろつてば今日は慰問奉仕の草刈だぜ」
 といつたら、ねばけたやうな聲で、
 「うん、さうだつたなあ」
 といつて起き出した。
 蚊帳をまくつて腹味を出た。母は三つの弟を抱いてまだ眠つてゐる。まだ眠い。腹巻を脱いで掛竿に掛け、露降りの服を着た。弟も着てゐる。掛竿の柱に掛けてある時計を見たら四時二十分だ。二人でゲートルの巻きつことをして、
 「行くべえやあ」
 といつて事務所に下りた。

(山口小學校第一 相馬英秀)

秩父連峰に囲まれた樋口村は朝霧が深く立ちこめてあたりの山々は見えない。
 この霧をつき破るものは兒童の作文にみられるやうに七つの部落から鳴り響く樋口校兒童の夏期勤勞奉仕のラッパの音である。
 學校の先生も、兒童も、村民も總てが一丸となつた模範的なこの村には兒童の夏休みも冬休みもない。兒童は部落単位に暑熱を克服して村のために活動し、日本人としての魂と力の強健と鍛錬にはげんでゐる。

奉仕作業につく前、各部落の兒童は國旗を描き「勤勞の誓」を行ふ。
 「近代戦は國家全體の力と力との戦である……一人の奉仕が、勤勞が、貯蓄が直接國力となる時が来たのである……」

馬や牛の飼料に、糞肥に、夏草は農家に貴重なもの。
 七月×日
 けふはA部落出征家族への草刈奉仕だ。

刈つた草は奉仕班の手で出征軍人の留守宅の庭隅に糞肥として高く積上げられる。有難い仲を戦線に出した老翁は「済まんら、有難うよ」いちらしい兒童の協力に感謝する。

埼玉縣秩父郡樋口尋常高等小學校



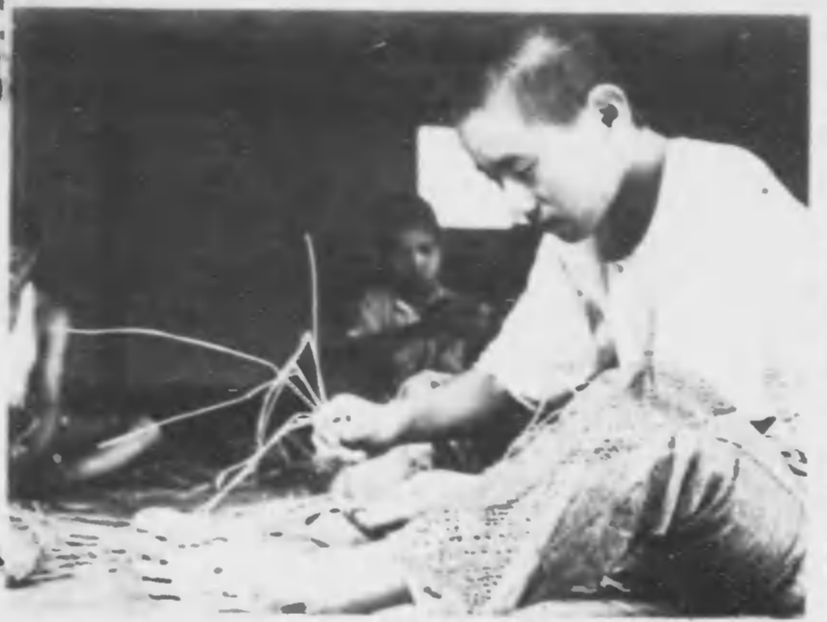
撮影 鈴木 實



⇒ 姉さんかぶり、茶蒸帽が仲良く自作の茄子をもぐもぐも楽しい一日だ。

雨の日ともなれば留守さまにある作業場でワラチを作る。これも生産の補充である。

⇒ エイワ、ヤツ、オ、城山に武を練る児童の気合は遠山にこたまし朝の冷風に心身ともに振る。



⇒ 部落の勤勞奉仕に流した汗も川にとひ込みばさらりと落ちる。「わあ、参った、参った」「いや、またたあ……」飛び散るしぶきに奮心は一切を忘れる。

⇒ 留守の森に暑さを避けて自作の筆を、作文を出征兵の慰問に送ることも楽しい日課だ。



夏休みを すて、

夏が来た。戦時下に三度迎へる夏である。戦線の將兵は酷暑的くやうな大陸の山野に成け海上に晝夜の別なく奮戦を続け、また銃後の護りにこしむ國民は擧げて奉公の赤誠をつくしてゐる。

この秋に當つて將來の國運を負つて起たねばならぬ學生、生徒、児童だけが獨り業を休み昇進を避けてよいだらうか？

まさに青少年學徒に對し自體を動員を神した文部省は今夏學生、生徒、児童を如何に過ごさせるかについて夏休みの再検討を行つたが、夏休みは勿論冬休も今後は「業を休む」といふ觀念を捨て

「心身鍛錬」の期間とすることに決定した。この心身鍛錬の方法はそれ／＼學校及び地方の實情に添ふやうに各學校校長の計畫に任されてゐるが、一例を擧げてみる。

(イ) 集團勤勞作業(生産力補充に對する協力や農家家族への勤勞奉仕等)

(ロ) 軍事訓練、滑空訓練、海軍訓練

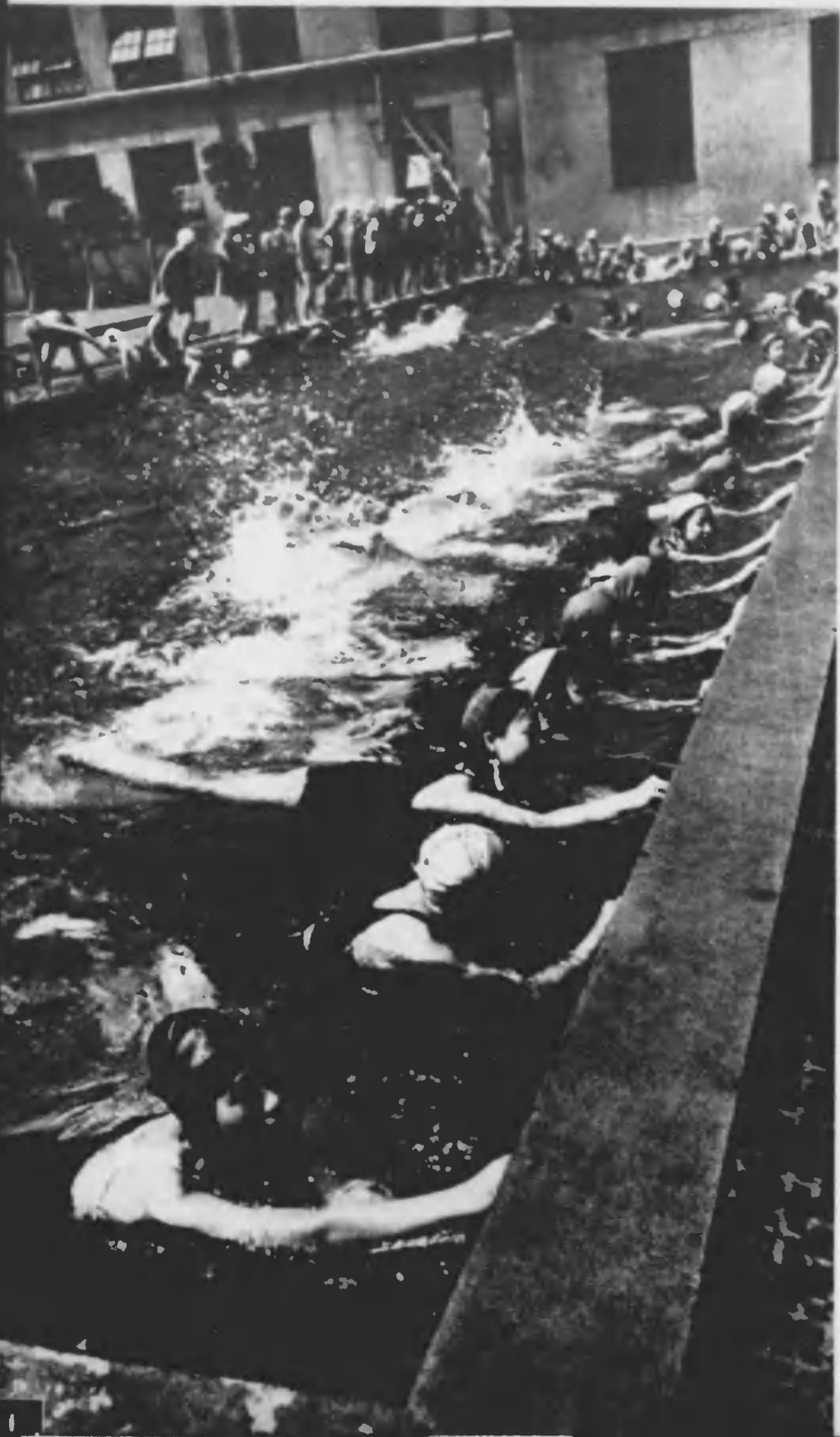
(ハ) 武道その他の業的訓練

(ニ) 運動(體操、水泳、スキー、スケート等)

(ホ) 見學旅行(聖蹟の巡拜、内地地見學、山形、磯城、工場等の見學、徒歩旅行等)などである。

しかし「業を休む」觀念を棄てよといつたからといつて學生や生徒、児童を、全期間學校に集めて鍛錬するばかりが能てはない。父母の膝下で家事の手伝をするのも、工場、研究室などで適當な自己鍛錬を行ふことも一つの方法である。また必要のあるものはその他の適當な計畫を樹て、豫め學校の許可をうけて學校で行ふ鍛錬に代へることも望ましい方法である。

山に、海に、街に昇進を見復して心身の鍛錬にこたへてこそ青少年學徒に銃後の夏は意義が深い



夏休みをすて

東京都



1 蒸せ返る教室で児童は高洲や支那の地圖を汗たくて製作する。かうして作られた地圖や諸種の圖解表は来學期の教材に使用される。思付のいい郡會児童の生産面である。
 2 理科に特に興味をもつ児童は植物や動物の標本を作る。
 3 壁や扉と所きはすべタノ、と貼紙することは都市の美観を非常に害する。
 4 仲のよい四人組は自發的に貼紙の清掃に大奮力。
 5 4-1いたらない私達ですが、洗濯や強ものをさせて頂きます。一應召軍人留守宅を訪ねた少女達は小母

さんを圍み繞りとして奉仕の洗濯にはげむ。
 5 スハ空襲の想定で炎天下に防毒マスクをつけた學校特設防護團員の防空訓練は酷暑を征服活潑に行はれる。
 6 使ひ馴れた自分達の机や椅子の破損は夏休みのうちに修繕しよう。
 7 少年たちは先生につれられ、近郊にキャンプ生活をする。都留の児童には自然に親しみ、體を鍛へるいい機会だ。
 8 泳げないものも今年の夏は泳ぎをおぼえよう。泳げるものはなほのこと、力一杯、暑さも病氣も飛沫と共に遠くはして、強くならう。強くならう。

東京市芝區愛宕高等小學校



撮影
内閣情報部



空を朝、きつりつまつてひしめきあふ
の種を誘蛾燈からひき出して、園丁さんは上
野の動物園に運んでゆく。

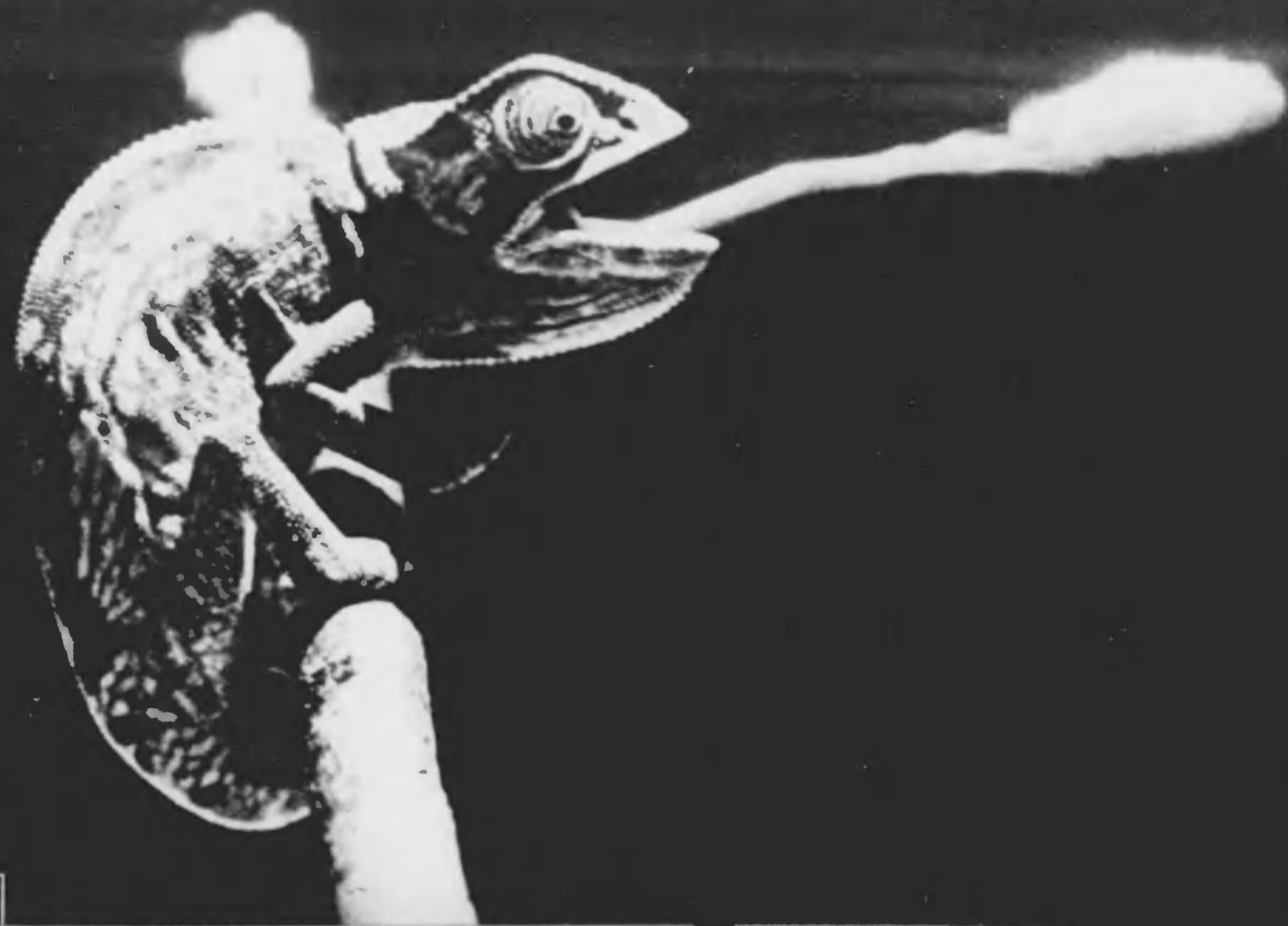
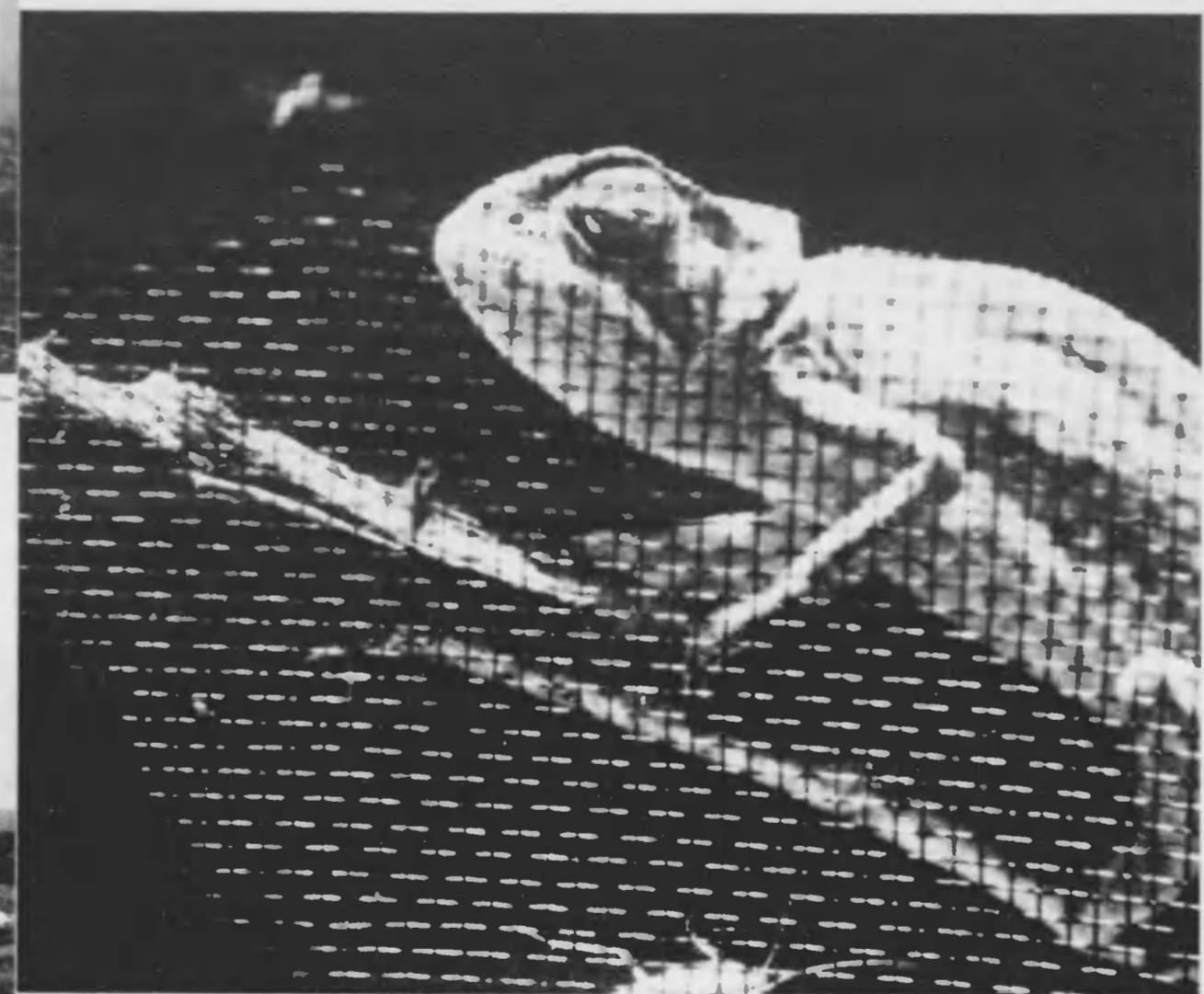


夜になると誘蛾燈の灯はますます光りを増
し、青白い光りを基つて夏の蟲はまつしぐら
に飛び込んでくる。

上野動物園では生餌の御馳
走か一杯つまつたこの種を
早速カメレオンの檻に解放す
る。(カメレオンは生きた昆
蟲しか捕食しない) この
北アフリカからはるく来た
爬虫類新眼目に集まるもの愛
さそりな小動物の眼の前を今
ブーンと銀が飛んでゆくと、
二寸たらずの棍棒状をしたカ
メレオンの舌が目にとまらぬ
はきさてこの日比谷公園から
の到来ものをバクつく。
この早業を捉へるためカメラ
マンは三日間の坐り込み戦術
を要したほどであった。



黄昏が日比谷の花壇におとつれると、ボオ
アと誘蛾燈に灯がともる。——丸の内界隈の
オフィスが遠げること。



物は相候 日比谷公園から上野動
物園へこんな相候かもとこまれた
最近日比谷公園の花壇の一隅に電力
六〇ワットの誘蛾燈がすえつけられ、
夏の夜、ここに涼を追ふ市民の前に青
く白い光を放つてゐる。
茨竹梅やグラジオラス、孔雀草やコ
スモスなどが一面に咲き亂れる日比谷
の花壇に夕闇が訪れると、数知れぬい
ろいろな夏蟲がどこからともなくこの
誘蛾燈の美しい灯に誘はれて殺到し、
キララのやうなセルロイドの板に次か
ら次とぶつかつては下部のたまりに落
ち込んでゆく。
さて、この誘蛾燈に捕へられたおび
たしい夏蟲 甲蟲、蛾、玉蟲など
を、上野動物園のカメレオンや小鳥や
トカゲに提供したらこれは一石二鳥の
名案ぢやなからうかといふわけで、事
業下の夏らしいこのすこぶる合理的な
思ひつきが、今、東京市公園課の手で
運められてゐる。

撮影 梅本忠男

誘蛾燈と カメレオン





校長先生も初年兵

撮影内閣情報部

前線將士の勞苦を思ひつゝ、軍隊教育を以て體驗し、小學校教育の刷新をはかりたいと、大阪全市から九十名の校長先生たちが、六月二十二日から三日間、奥津部隊の兵舎で厳格な規律の下に第一回部隊講習講習をうけた。二十二日、青年制服に巻グートルも勇ましく除伍室★奥津部隊兵舎に入營した校長先生部隊の中には六十歳を越える老校長の姿も見えたが、炎装の中を非常な元氣ぶりに現役の兵隊さんを對させたが、奥津部隊でも校長先生の職務講習は大抵市では勿論全国でも最初の試みなので部隊長以下心をこめてこれを迎へた。

かくて二十四日まで、老初年兵の校長先生たちは、かつては自分たちの敵へ見であつた若い現役の初年兵に手を執つて教へられながら、炎天下に各個教練、音楽教練、戰術教練を行ひ、機關銃、歩兵砲の取扱、馬の手入れからガス防護法、煙幕などを次々と習ひ元氣一杯、一人の落伍者も出さず、貴重な經驗を身に燒きつけて三日間の營内生活を終つた。



重砲訓練の射撃演習、ニョース映畫で戦後か見たあの逞しい重砲の引金をいま校長先生は實際に引いてみる。轟然と鉄口は吼え、強力な反動は身に響きわたる。

進め、伍長殿の命令一下、A校長とB校長は重砲を引いた。C、D、E、Fの各校長は彈藥箱を背負ひ、地面を匍つてこれを追ふ。

防護面が一組づゝ渡された、校長先生も今日はすつかり生徒になつて、普救へた少尉殿からガス防護法をきき、防護面のつけ方を教はる。

突込め、わあッ！校長先生は突走つて來ると力一杯重人形に銃筒を突射した。戦場の勇士にも負けない氣魄を面に示しながら、恐ろしくも大丈夫です、さうしてフッラッンをかけてやると馬は眼を細めて喜んでます。師範學校出の短期現役兵は懇切に馬の手入れ方を指導する。





東京海上火災株式會社

本社 東京市麹町區丸ノ内一丁目六番地

開業 明治十二年八月
 資本金 七千五百萬圓
 諸準備金 一億一千二百萬圓

營業種類
 海上運送 火災 森林 利益
 自動車 硝子 盜難 傷害 航空 風害

支店 出張所
 大阪 神戸 名古屋 京都 福岡 上海
 大坂 神戶 名古屋 京都 福岡 上海



旭日を拜め
 長野市 清水 秀二

事變二周年を記念して長野縣下に「旭日を拜め」と旭日禮拜聯盟が生れた。
 旭日禮拜第一日の七月七日同地聯盟一同は午前三時手城山公園に集り、同四時五十三分旭日を拜み、聖靈の萬歳を三唱した。
 わしらは元氣だ
 山口市 齋藤 誠二



宇島の勤勞作
 沼喜久一
 京城市



時局ホスター展作品

畫業二周年、時局は愈々重大であります。この秋に當り昔々國民の自衛を喚起する事は目下の急務であります。依つて廣く一般から時局ホスターを募集し、之を展示して國民精神總動員運動強化の一助と致し度事に成りました。
 畫面構成は従来のホスター圖案形式だけでなく、寫眞及び寫眞モンターヂ、漫畫等の技術差支なし。
 特に今回はホスター構成の新機軸、迫力ある技術を期待します。
 作品に關する詳細事項は
 一東京市麹町區水田町二丁目一番地内閣情報部分局ホスター展第一覽二覽切手封入の上申込下さい。
 切手 昭和十四年八月一日(日曜)迄
 主催者 國民精神總動員ホスター作家聯盟
 主 幹 國民精神總動員中央聯盟
 後 援 國民精神總動員中央聯盟

復習室

本號からあなたは何を學んだてせうか?
 左の問題は總て本號の中にあります。さあ、復習をやりますせう。
 1 大日本忠靈顯彰會はいつ發會式を挙げましたか? (1頁)
 2 學生、生徒、兒童に今年の夏も今迄と同様の夏休みがありますか? (9頁)
 3 奉仕隊が刈つた草は農家で何に使はれますか? (1頁)
 4 カメレオンは何類に屬する動物ですか? (13頁)
 5 カメレオンの舌はどんな形をしてゐますか? (13頁)
 6 カメレオンは死んだ蟲でも食べますか? (13頁)
 7 七月七日東京代々木原頭で行はれた劍道大野戦には何人位の参加者がありましたか? (3頁)
 8 戦車も敵前渡河に活躍出来ませんか? (14頁)
 9 最近九十人もの校長先生が實際に軍隊生活を體驗しましたが、何所の校長先生たちですか? (14頁)
 10 この校長先生たちは何のために軍隊生活を試みたのでせう? (11頁)
 右の問題、一問十點としてあなたは幾點でせう。



★表紙
 チー、チーと油煙の管から
 蒸せる霧が九月にまつた
 白い衣に赤い赤十字の
 縫ひつけたる紅の帯から
 とめどなく汗が成りた
 らぬ。私達の赤十字隊は
 感涙を誘ふ奉仕に從つて
 私達の赤十字隊は奉仕に從つて
 なかつた。子と母を
 抱きしめ、母を胸に
 抱きしめ、母を胸に
 を口ずかした。母を
 口ずかした。母を
 口ずかした。母を

所 込 中	定 價
全國各地官報販賣所 東都書籍株式會社 各書店・驛賣店 各新聞販賣店 寫眞材料店	一 部 十 錢 半ケ年 (前金) 二圓四十錢 一ケ年 (前金) 四圓八十錢 (外國郵費に於ては 半ケ年分未滿配達希望の方は一割十錢の割合を以て 前金を添へ御申込下さい) 内閣印刷局發行課 電話丸ノ内(23)三五一九 郵政振込 一九〇〇〇

東京新聞 昭和十三年七月二十一日 東京新聞社 昭和十三年七月十九日発行 第一四七二号

健康を培うが季節です

日光は豊富、空気が清らか、食物は新鮮、夏こそ児童が山に海に健康を培ふときです。この機会を逸せずハリバを連用してA.D.を体内に蓄積し、体力を鍛錬することです。

夏も休まず

ハリバはビタミンA.D.の濃厚な高純度肝油を精製したものです。一粒が一日分の必要量を補給し、小児二粒二粒で足り、臭くなく、お腹にもたれず、皮でも休まずお子さまが喜んで飲みます。

これこそからだの抵抗力は強くなり、夏負け、夏瘦せを防ぐに役立つだけでなく、秋から冬の寒胃季にも、かぜや結核などに負けない頑丈な健康体になり得るからです。



			一日量
○	○	○	
○	○	○	

百粒 二四五年用
五百粒 四五年用

ハリバ 健康児を創る

内閣印刷局印刷發行

(別紙「添付」・A4倍縮定画は左大の書本)